

越佐みなと通信

平成 26 年 9 月 号

-越佐・みなと三つの役割…交易・産業・湊まち-

2 □ 佐渡市及び柏崎市でビーチライフが開催



ビーチライフin佐渡 記念撮影

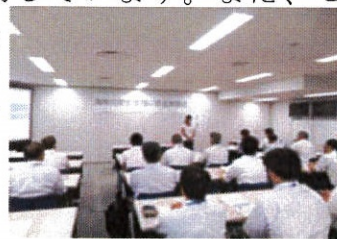
8月2日、佐渡市真野長石海岸において、佐渡市で初めてとなる「ビーチライフin佐渡2014」が開催されました。同イベントは、佐渡市及び佐渡市スポーツ振興財団が主催したスポーツイベントです。競技前には、約200人の参加者全員でビーチクリーン（海岸ゴミ拾い）を行いました。開会式では、甲斐元也佐渡市長やゲストのNPO法人日本ビーチ文化振興協会の朝日健太郎氏、遊佐雅美氏から挨拶があり、その後、参加者全員で記念撮影を行いました。イベントは、ビーチバレーやビーチサッカー、ちびっこビーチ運動会などが行われ、参加者は、砂まみれになりながら競技を楽しんでいました。また23日には、柏崎市みなとまち海浜公園で「第2回ビーチライフin柏崎2014」がNPO法人日本ビーチ文化振興協会柏崎支部の主催で開催されました。午前中は「ちびっこ運動会」が行われ、午後にはビーチフラッグス大会やビーチバレー教室などが実施されました。地元の子供達や家族など約70名の参加者は、「はだし」で夏休み終盤の海岸を駆け回っていました。



ビーチライフin柏崎 運動会の様子

3 □ 海岸の安全管理に係る勉強会が開催

8月6日、海岸をより安全で楽しく利用してもらう為の海岸管理について考えていこうと、ライフセーバーとして活動されている遊佐雅美氏を招いて「海岸の安全管理に関する勉強会」が北陸地方整備局にて開催されました。遊佐氏は専門学校在学時、ライフセービング協会の講演会での「あなたの目の前で愛する人が溺れていたら助けられますか」という一言でライフセービング活動をはじめ、現在、柏崎市の海岸で活動しています。また、ビーチフラッグスで日本選手権17連覇、世界大会で4度の優勝経験をもつ第一人者です。遊佐氏は講演で、「ライフセーバーの使命は溺者の救助のみではなく、水難事故を未然に防ぐことが重要であり、それが第1の使命である」と強調されていました。また、「ライフセーバーが常駐している海水浴場が少ないことから、今後、ライフセーバーの数を増やしていくことが必要である」と話されていました。そして、「海水浴場の安全確保には、ライフセーバーを増やす以外にも、海水浴場の範囲を示した看板の設置や遊泳区域にブイを設置するなどの対策も大切だ」と指摘されました。勉強会の後半では、模型人形を用いた心臓マッサージやAEDを使った実技講習も行われ、万が一の時の対処法を学びました。この勉強会には、北陸地方整備局の職員だけでなく、新潟県など関係機関の職員も参加し、海岸の安全管理について知識を深めました。



遊佐氏の講演



心臓マッサージの実技講習